

会議名 平成23年度第3回ニセコ町環境審議会

| | | |
|---|----------------------|--------------------------|
| 開催日 平成23年11月9日 | 会議時間 | 開会 PM 2:00 閉会 PM 3:50 |
| 会議場所 ニセコ町役場第2会議室 | 記録者 企画環境課環境エネルギー係 | |
| 出席者 水上武史、吉川洋子、吉原京子、鈴木延夫、福井祥行、松田勝美、佐々木智子 事務局 茶谷課長、樋口係長、竹内主任、コミュニティー研究所梅田氏 | | |
| 欠席者 泉洋一、松田保、宮田文子 | | |

会議日程

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
 - (1) アンケート調査結果報告
 - (2) ニセコ町第2次環境基本計画素案
 - (3) 自由討論
4. 次回委員会開催日程、議題等について
5. 閉会

会議内容

<主な内容>

- ・アンケート結果内容と10年間の検証のまとめについて
- ・次期計画について、現行計画同様の「水環境のまちニセコ」を環境目標として計画を作る。
- ・計画の骨子については範囲が広いため、今後有志審議委員による勉強会を週1回程度開催し、理解と協議を進めていく。
- ・計画は範囲が広いため、事務局案である素案の年内完成は難しいのでは。

<意見の詳細>

○アンケートについて

- ・統計的には良いが、回答率を見ると低い。回答しないことにも意味があると思うがどう思うか。
- 結果としては地区ごとに若干の偏りが見られるが大きなものではなく、95%の信頼度で結果が出ている。回収率については郵便による方式だと一般的な率だと判断できる。
- ・農繁期だったので回答率が下がったのでは。

→職業別に集計していないので分析していない。

- ・高齢者の方はポストに行くまでも大変だったのでは。

→高齢者の回答率はよい。

- ・アンケート調査で、川北と近藤が他地区と違う傾向が見られるので、職業別の集計を行うと特性が把握できてよいのでは。

○検証と現状分析について

- ・PDCA、LCAなどの用語についてはわからないので解説が必要。

→解説を入れる

・12年間の計画の連続性の確保をどうするのか。中心メンバーの連続性に問題がある。行政は人事異動があっても形式上は引き継がれても流れが絶たれることが多い。役場主体で行うのではなく、住民サイドで主体的に行うべき。

→人事異動の引継はしっかり行う。しかし担当になってすぐの場合は即座に理解できるわけではないので協力をお願いしたい。住民主体の評価・管理は検討していく必要がある。

○環境目標について

・アンケート結果を見ても、環境保全、水資源（森林）の保護については関心が高く、それらを環境目標と掲げることは賛成。

○計画の骨子について

・イエスクリーン認証は慣行レベルから農薬3割減程度にすぎないので、間口を広くするのは良いが、より農薬を減らす形としてイエスクリーン認証ではなくニセコルール（独自認証）を設けては。

- ・実態調査の中身がわからない。誰がやるのか。

→学術的な調査、必要最低限の調査と2つ考えられるが、やれることを見極めながら実施していく必要がある。見極めるための調査が必要と捉えている。

・この内容すべてを今回の審議会1回でやるのは無理である。内容が多すぎて理解できない。最近の町は意見を聴くポーズだけで結局は自分たちの都合の良いようにやっている。

→そのように考えてはいない。たたき台として提示させていただいたのであり、継続して検討していただきたい。計画には審議会の意見も載せるべきと考えている。

→勉強会を定期的に開催しては。

→1週間に1回のペースでしばらく続けていく。

- ・計画の骨子、基本的な考え方についてはこのような形式でよいか（事務局より）

→よい。

○その他

・地球温暖化実行計画（区域施策編）について、国以上の目標を掲げているが、二酸化炭素が温暖化の原因かどうかという点から、国も確たる根拠の無いまま出している数字をポ

- ーズとして追いかけるのは疑問。安易な計画策定はむしろ町益を損ねると思う。
- 実行計画に修正すべき点があれば随時見直しを行っていく。
- ・浄化槽協会は何に基づいて検査を行っているのか。検査料金が高すぎる。